

難所施工時の注意ポイント

Vol.6

この連載では難所施工時における注意点をQ&A方式で紹介していきます。今回は関東圏を中心に各地の様々な墓地で施工業務を請け負っている(株)岩佐石材工業(千葉県市川市)の岩佐裕之社長にお話をうかがいました。

作業前の

現地調査が重要

―墓地の通路が狭く、ミニクレーンなどが入らない現場において、どのようにして石を運んでいるのか、そのコツや注意点などを教えてください。

岩佐 当社は元請けの石材店様からご依頼をいただき、墓石の施工・解体の作業を行なうことが多い会社です。作業前には必ず現地調査を行なっていますが、その際、運搬機が使用できない場合は人力での作業となります。

階段がある場合でも、道板を敷くことで運搬機を使用できる現場もありますが、使用できない場合は手作業で持ち運ぶこととなります。そのため、墓石の解体・撤去作業前には、元請けの石材店様を通じてお施主様に「棹石などの石材を割つても良いかどうか」の確認をお願いしております。

当社は小型運搬機「力丸」を使用しています。この「力丸」は、高さ約5寸くらいの階段であれば、3尺5寸ほどの石をラッシングベルトで固定

し、一人で操作することが可能です。ただし、注意すべきはワイリーの発生です。これを防ぐために、若手作業員を二人付けて運搬するようにしています。山間の墓所などでは「力丸」がなければ作業は不可能だった現場も少なくありません。

「力丸」が使えない場所では、通路をコンパネで養生し、南京を敷いてコロで石を送りながら運ぶこともあります。難所での現場では、石を割つて良いかどうかの判断が、その後の作業に大きく影響することが多くあります。

大きな墓石の場合は、三又や三脚を使い、少しずつ慎重に移動させるような現場も多いです。こ



階段のある墓地では道板を敷くなどして対応



施工時には作業員にヘルメットを着用させるなど「安全第一」の意識を徹底させているという

の方法も、経験がなければ倒れる危険があるため、十分な注意が必要です。機械がなかった時代に山間部で作業していた石屋さん、特に年配の職人さんたちは本当にすごいと思います。当時は他に方法がなかったとはいえ、三又や三脚だけで全ての作業をこなしてしまうのですから、その技術力には圧倒されます。

「危ない」と思い、逆方向に動かしたら元に戻り、なんとか事なきを得ました。それ以降は、アルミブリッジを設置する際にラッシングベルトでずれないように固定すると共に、中央部と一番下の部分も含めて三カ所を固定し、アルミブリッジが動かないように注意しています。

「安全第一」を徹底

―実際にヒヤリとした現場での経験談を教えてくださいながら、同じような現場で施工する石材店さんが注意した方がよいと思うことを教えてください。

岩佐 アルミブリッジ(道板)を固定し、その上にミニクレーンを載せて動かしていた時のことです。アルミブリッジを

様々な現場で活躍しているという「力丸」

時間ばかりですが、安全のためには、一つひとつの小さな危険を回避する取り組みをコツコツと積み重ねるしかないと思っています。自分自身もこれまで多くの経験をしてきましたが、大切な

のは基本をしつかり守ることです。若手の作業員にも、安全第一の心構えを徹底して伝え、「横着は絶対にしないように」と、口うるさく指導しています。

何より、人間の身体は代えがききません。安全第一であることは、お客様の安心と信頼を高める上で最も重要なことだと考えています。



【回答者】

岩佐裕之さん…2006年に石工事を請け負う専門業者として創業した(株)岩佐石材工業の代表取締役。学生時代から石工事にに関わり、この道35年以上のキャリアを持つ。現在社員10名と共に「安心・安全第一」の姿勢で仕事にあたっている。

◆(株)岩佐石材工業・大野事務所
千葉県市川市大野町3-2136-2
Tel.047-702-3745

生まれます。しかし、そのゆるみが命取りになりかねません。そのため、全社員に対して、帯やクレーンで荷を吊る作業を行なう際には、「落下する可能性も想定しながら作業を行なうこと」。また、「荷の下に入ること」が絶対にならないように」と、注意を徹底しています。

―お客様と打ち合わせをする際に、勘違いや作業後のクレームを防ぐために注意していることを教えてください。

岩佐 何よりも事前の現場確認が重要だと思っています。この点については、やりすぎではないことではないと考えています。

それから、もちろん、石材を傷つけないようにすることも大切ですが、それ以上に作業員が怪我をしないことが重要です。墓地で怪我をしてしまえば、お施主様の印象も悪くなりますし、元請けの石材店様にご迷惑をおかけすることにもなりかねません。